

「自分の内面を表出したい」 そのために創作を続けてきた。

版画家 浜田知明さん



アトリエにて

世の中を風刺した銅版画や彫刻に取り組む熊本市在住の版画家・浜田知明さん。「自身の戦争体験や、現代社会における人間の風化を刻んだ作品は、見る人の心を揺さぶらずにはいけません。

平成五年には、日本人として初めてロンドンの大英博物館・日本館で、個展が開催されました。その作品に感銘を受けた同館長が説得力実現に至ったものです。

「自分が納得できるものを作るだけ」と静かに語る浜田氏に、作家と社会(時代)との関わりや作品の原点についてお聞きしました。

戦争体験を描いたのは、自分に誠実であるため

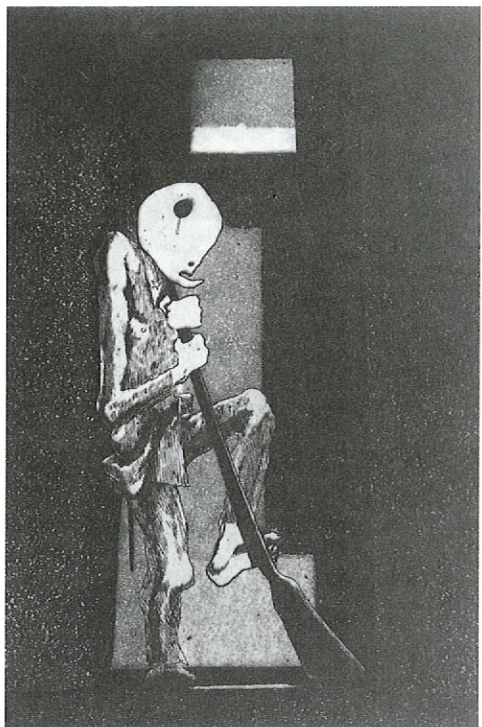


大英博物館で開催された個展から

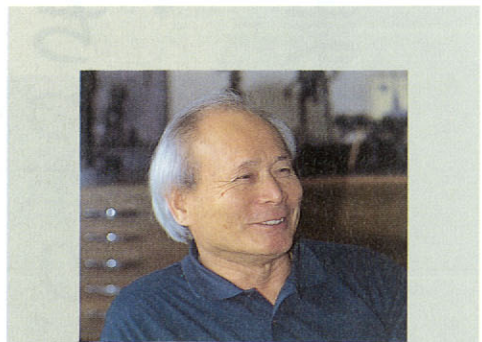
私が小学生の頃、日本で初めて出版された「世界美術全集」を父が買いました。それをいつも見ていた私は、美術に興味を持ち、中学二年の時には、将来、画家になろうと決意していました。

でも、美術学校卒業後、陸軍入隊。まる五年間に及ぶ軍隊生活を体験しました。軍隊では、自殺ばかり考えていました。肉体的苦痛には耐えられる。しかし、納得できない戦争に加担していることや軍隊の理不尽さが、何よりも辛かったです。そして、それを口にすることもできない絶望感。初期の作畫「初年兵哀歌」(連作)の二等兵の姿。あれは私自身です。

中国の荒涼とした景色の中で、たくさんの死体を見ました。ゴムマリのように膨れあがった死体。ウジのわいた死体。人間をモノとしてしか扱わない戦争。人間の喪失。私はこれらを画家



初年兵哀歌(歩哨)1954年



はまだ ちめい

■プロフィール

- 1917年 上益城郡御船町生まれ。
- 1939年 東京美術学校(現東京芸大)卒業 陸軍入隊
- 1940年 中国・山西省に派遣され作戦警備に従事
- 1944年 召集 伊豆七島新島勤務
- 1948年 単身上京
- 1956年 第4回ルガノ国際展で受賞 第2回現代日本美術展で受賞
- 1957年 ふるさと熊本に帰る
- 1960年 第4回現代日本美術展で受賞
- 1962年 第2回福島繁太郎賞受賞
- 1965年 フィレンツェ美術アカデミー版画部名誉会員となる
- 1985年 熊本県近代文化功労者顕彰
- 1989年 フランス革命200年記念に際し、フランス政府から芸術・文学勲章シュヴァリエ賞受賞
- 1992年 福岡県カルチャーセンター壁画「飛翔」制作
- 1993年 大英博物館・日本館で、日本人として初めての個展が開催される

*北九州市立美術館、オーストリア・アルベルティナ国立美術館、同・グラーツ州立美術館、神奈川県立近代美術館などで作品展。

「社会をどう表現するか」 それも美術の役割

子供の目は鋭いですね。熊本県立美

として客観的に眺めていました。戦後、他の画家たちは戦争を素材にすることを止めてしまいました。が、私は、私の体験した戦争を描かずにはいられなかったのです。「人のため、社会のため」ではなく、あくまでも自分自身のために。そして、結果として、それが社会の役に立てれば一番幸せです。

私の創作活動は、戦争体験を描出することから始まりました。この時、出合ったのが銅版画です。銅版画はヒヤリとしているでしょう。作品化したイモチーフは、まだ、たくさんあります。

十年ほど前からは彫刻も始めました。たまたま粘土をひねっていたら面白くなって。版画を作りながらも、「これは彫刻の方がよく表現できる」というものもあるんですよ。

美術館で個展を開いた時、子供たちもよく見てくれました。「浜田さんは人間が好きなんですね。人間の外側ではなく、心の中を描いているんですね」という小学生の感想文には、びっくりさせられました。

美術には、「人を楽しくする」とそして「装飾性」という役割があります。でもそれだけでなく、「私たちが生きている社会」を表現するのにも一つの役割だと思ふのです。今の社会も、作品化した素材には事欠かない。私のように「社会」にこだわら作家は少ないかもしれません。が、私は、思想性を大切にしたい。

国際的と言われるほど世界の美術界は甘いものではありません。まあ、ぼつぼつ、わたくしは、自分の作品を創り続けたいと思います。

生みの苦しみ? ありませんね。もちろん興味ではなく、仕事です。でも、最近楽しんで創作しています。